

キャンパスFM研究部会

大学淘汰時代を 生き抜くためのキャンパスFM

部会長 興津 利継

おきつとしつぐ

株式会社FOR

代表取締役

認定ファシリティマネジャー



キャンパスFMの必要性・重要性

大学における教育方法や環境の変化に伴い、施設に求められる質と量は変わってきます。施設ニーズの変化に対応するのがファシリティマネジャーの役割ですが、施設を変えるには、企画検討から計画・実施までに長期間を要するため、変化を先回りして予測する必要があります。また、既存施設の活用可否、建物の劣化更新費用の算定など、財務面での調整も必要になります。

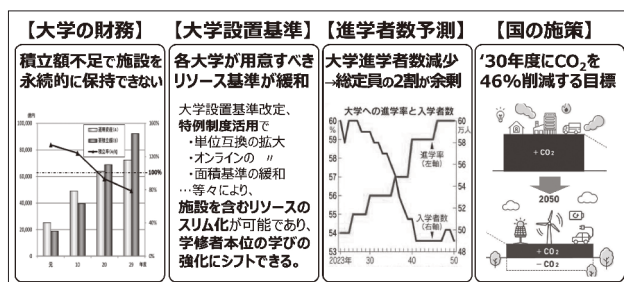
そのような基本対応に加え、ファシリティマネジャーが想いをもって学生の潜在ニーズに合致した施設を造り出したり、学修を促す環境を整えることで、大学の魅力を高めることができます。教育内容、卒業後の進路と並び、4年間（または6年間）を過ごす環境・場は大学評価の3大要素と言っても過言ではありません。

キャンパスFM研究部会では、多様な部会員構成を活かして幅広い見地から調査研究を行い、FMが大学経営により深く貢献できるようになることを目指しています。

大学経営に関わる4大変化と事例の提示

当部会は調査研究を通じて、キャンパスFMに大きな影響を与える変化は以下の4つであると結論づけています。（図表1）

1. 持続的な運営に必要な額の積立ができなくなっていること
2. 各大学が用意すべきリソース（教員、施設）の基準が緩和されたこと
3. 進学人数の減少が顕著になり、定員余剰が問題になってくること
4. 国の二酸化炭素排出量削減目標の達成が必要なこと



図表1 キャンパスFMに影響を与える4大要因

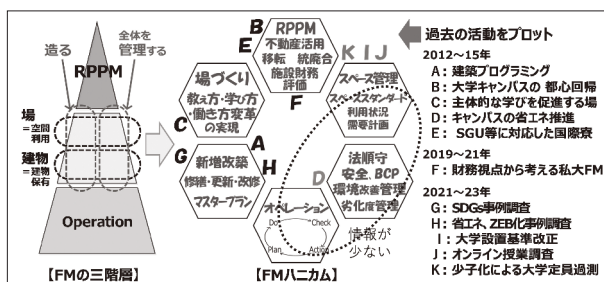
言い換えますと、「財務状況から今の施設規模は維持できず、基準は緩和されて進学者も減少するのだから、大学施設はスリム化すべきだ。その過程で、二酸化炭素削減を達成できる ZEB(net Zero Energy Building)を増やし、魅力的な学修環境を構築すべきだ。」となります。

FMフォーラムでは、スリム化の方法として教室必要数の算出方法を、事例として研究室の教員専用スペースの縮小策を挙げました。

部会活動を振り返るためのFMハニカムへのプロット

当部会では、取り巻く変化に加えて、幅広く先進事例の調査を続けています。さまざまなテーマを扱ってきたように感じていますが、手つかずのFM領域が残っているかもしれません。それを確かめるために、FM三階層の中間層を4つに分けたハニカムマップを作成し、活動を振り返ることにしました。中間層の4分割は、建物と内部利用、事例・構築プロセスと管理指標の2×2で、全体をハニカム形状で示すと図表2の中央になります。

2012年からの活動を図表2の右側に記載し、これらを中央のFMハニカムにプロットしてみると、スペースや環境などの管理情報や、オペレーション、施設コスト関連の情報など、場や建物造りの基となる管理情報の収集が手薄であったことが分かりました。フォーラム発表後に部会員間で議論した結果、「大学の内情に関わる情報で外部に出しにくいものが多数ある」ことも分かってきました。今後、公表事例を丁寧に収集し、役立つ情報に整理したいと考えています。◀



図表2 当部会活動のFMハニカムへのマッピング